

# ふくてっく運営会議 議事録

開催日時：平成25年5月11日 例会前 10:30～12:00

開催場所：例会場（大阪市立社会福祉センター3階会議室）

参加者：(理事・監事) 清水 畑 杉浦 秋岡 和泉 小川 中北  
(その他参加会員) 古場

議事進行：中北 書記：中北

## 次第

### 議題1. 20周年記念事業の遂行体制について.....

7月から1年間で周年記念期間とすることを再確認。

畑会員は業務の都合で9月以降定例会等への参加が難しくなるため

周年記念事業の推進リーダーを清水・小川両会員に交代する。

次年度の学習会テーマは20周年に関連したものを織り込み、その都度みんなで考える機会とする。

7月はゆめ風基金から講師を招き「障害者市民防災研究」の話を聴き、ふくてっくが社会貢献できるミッションを模索したい。

また、ふくてっくの会員はその所属年数も幅が広がっており、比較的 新しい会員のためにも、ふくてっくの歩みをまとめた。それについては新しい会員に携わってもらうのがよい。

### 議題2. 各事業、部会活動報告 (H24 下半期の経過).....

8月3日の総会とこれに先立つ理事会日程を考えると7月13日(土)に運営会議を開催して、各部の事業報告、収支決算を取りまとめる必要がある。

本日はまだ会期中であるが、以下に各部の活動経緯を確認する。

#### 1) 木工活動 (小川)

下期の活動は動いていない。

荻田会員の親が所有する空家を活用して木工活動の拠点とできないかを検討すべく現地を視察した。利用させていただくとすれば、その対価をどのように設定するかまたその原資をどのように捻出できるかが課題。

駅からの上り坂が尋常ではない。

#### 2) 福祉用具部会 (古場)

下半期は事実上休部状態であった。

来季以降については、古場会員は部長を辞したい意向。

杉浦、荻田両会員もこれに替わることは、体調その他の状況が整わない、よって部会は休部とする。

下半期の活動がないとしても総会報告は通年の決算として取りまとめる必要がある。

#### 3) 住環境研究部会 (畑)

畑会員がリーダーを継続するが、土曜日の活動が難しくなるので、

部会開催は土曜日を避け、定例会での報告等は曾我部、佐久川両副リーダーが務める。

#### 4) 研修部会 (報告者欠席)

#### 5) 東大阪部会 (清水)

平成24年度の活動は、報告書作成を残して無事完了している。

介護住改の検证件数が契約時の設定に比して大幅に目減りしており、これに伴って収入は改造助成とあわせ約600万円に留まった。

平成25年度については契約の上限は約830万円だが、前年ほどではないにせよ若干の減少があるだろう。尼崎の委託費を合計して約800万円になる見込み。

## 6) 社会連携・こむねっと事業部会（中北）

24年度は建物定期検査2件と福祉サービス第三者評価1件に取組終了している。

6月末まで、新たな取り組み予定はないので収支は確定している（別紙資料）。

S社第三者評価単独ではわずかに黒字となったが、養成・継続研修等の諸支出を合算すると、第三者評価事業はマイナスになっている。

これを建物定期検査報告の収益および検査機器類の売却による収入が補い、事業部全体としては3万円強のプラスになる見込み。

次年度は建物定期検査報告は活動外となるほか、新規開拓事業は当面収益を望めないもので、いよいよ第三者評価事業を経済的に自立させ、むしろ採算部門とする必要がある。

### 新規事業企画の進捗状況

#### ・SCP

室崎教授より重要な着眼だと評価され、適切な学識者を紹介して支援しようとの言葉をいただいている。

今後も学識者・企業・行政をまたいで多方面に声掛けを進める。

#### ・障害者支援団体による障害者の住環境改善への後方支援事業

多くの障害者支援団体に構想を説明し、参加を呼び掛けている。

#### ・介護および支援記録ソフトの開発

以上の3事業を発起すべく準備中。

### 建物検査機器の処分について

中北AOに3万円で売却する。

### 社会連携活動範囲の再検討

有ボ連については、過去に、会費を納めて参加する意味（利益）があるのかといった議論があった。その際にも大勢の意向は脱会に傾いたが、少数意見ながら、ふくてつくに何が得られるかが問題ではなく、参加の機会を得て、ふくてつくに何ができるかを考えねばならないとして参加を継続してきた。

その後、中北が事務局長に復帰して以来、積極的に参加し、その情報をふくてつくにフィードバックしてきたのであるが、2年余を経過してふくてつく会員には連携参加の機運はその兆しもない。

また有ボ連の集まりも、最近単に参画団体の情報交換に留まっており連絡会を結成して社会活動を協働するという実態を伴っていない。

また、その会議の進め方は事前の準備等もなく、正副代表の欠席も

目だっている。参加団体や参加者はそれぞれ素晴らしい方たちであるが、そのような状況で、慣性的に参加を続けることはいかがなものか。

こむねっとは、ふくてつくの外部連携を引き受けたのであるが、

有ボ連については、こむねっとはこれを会に返上して、目指すところに精力を集中したい。

ふくてつくは7月が期首であるが、有ボ連は4月期首であり、25年度会費の納入時期も差し迫っているので早急に決定する必要がある。

（以上、中北の提言）

これについて議論の結果、ふくてつくは有ボ連を退会することとする。

宅老連については、不定期ながら開催される学習会等には有意義な企画が多く、またそこに参集する顔ぶれも多士多彩であり、

今後はこむねっと事業部が団体会員（これまでは杉浦・中北両会員が個人的に会員登録していた）となって参加する。

NPOセンターについても、こむねっとが開拓している新規事業と関連して、今後の協働機会が増大すると思われる。

### 議題 3. H25 年度執行部体制について . . . . .

現役員の次年度予定

退任を希望する理事：杉浦 和泉 畑

新役員の候補

留任する理事：小川 清水 中北

新任理事候補：曾我部 後藤 池端 佐久川 岡

監事は秋岡、稲住両氏に継続していただく

新任理事候補者には、おいおい個別にお願いをして

7月の理事会で決定したい。

外部理事については、総会にて外部理事を招聘する旨、再度確認して

その後に人選する。

### その他議案 . . . . .

地域包括において、

高齢者・障害者の地域生活支援という観点で住環境改善の研究会を立ち上げたい。

その手法の一つとして、寸劇スタイルの講習ができないか。

ふくてっく劇団の結成を 20 周年記念の事業として取り組めないか。

同様にふくてっく歌唱部をつくって、特養などの施設を慰問するのはどうか。